

- ・同ハザードマップにない内容等を盛り込むよう、市からの提案・アドバイスがあった。

●先進地視察（現地調査）の報告

8月29日（火）～30日（水）に実施した先進地視察の詳細について、事務局より報告。内容については、本報告書「第3章 現地調査報告」（P.39）を参照されたい。

●防災講習会の報告

9月3日（日）に実施した防災講習会の内容紹介を行った。

- ・テーマは「震災からの教訓」であった。
- ・103名の参加を得て、有意義な講習会となった。

●第2回検討部会報告

白木委員より、以下のとおり第2回検討部会のポイントを説明。

- ・防災マップづくりについて、具体的なまち歩きの実施時期や方法、全体スケジュールを調整。
①まち歩き用地図→②暫定まとめ図→③編集加工図 の手順を確立。今後、編集作業に入り、周辺情報も入れて12月に完成予定。
- ・小中学生の参加について提案されたが、学校行事等との兼ね合いで結果的に参加できず。

●第3回検討部会報告

白木委員より、以下のとおり第3回検討部会のポイントを説明。

- ・防災マップの検討事項を討議。
サイズはA1かA2か、全地区1枚か各地区1枚（計2枚）か →次回検討部会で決定。
- ・編集作業の進め方とスケジュールを決定。
- ・要援護者対応の課題について討議。
当初は簡単かと考えていたが、個人情報やプライバシーの問題があり、意外に難しいことが分かった。次年度のまちづくり協議会における重要なテーマとなると思われる。

●現在の防災マップの状況説明

白木委員より、以下のとおり防災マップの進捗状況等について説明。

- ・実際に地図に書いてみると、災害避難時の課題が見えてくる。特に、当地区においては避難所に行くのが困難な場合も想定されることが分かったため、言葉は難しいが臨時（自主）避難所のような場所を設定し、何らかのかたちで住民に周知していく必要があるかもしれない。
- ・今後、防災マップづくりは編集作業に入る。細かい点としては、文言の調整、写真の選択、タイトルの決定、用紙サイズの選定などがあるが、検討部会で大筋の方向性は見いだせており、1か月程度で詰めていく予定である。
- ・現状では、A4版表裏とし、壁貼りではなく手に持って使うことを想定している。
- ・スケジュールとしては、おおむね年内に検討事項を決定し、1月予定の検討部会で詳細を詰め、2月上旬予定の第3回委員会でお披露目としたい。

●報告書構成案

事務局 岸田より、報告書の内容について次のとおり説明。

- ・長府東部地区が、具体的にどのようにして防災マップを作成したのか、その経緯を是非とも記録したい。その記録こそが、他地区の参考になると考えている。

- ・上記の経緯を元に「防災マップ作成マニュアル」を作成し、報告書にも掲載したい。
- ・課題については、次年度以降に取り組むべき内容として報告書に掲載したい。

(9) 第4回検討部会

①実施日時・場所

平成29年11月29日(水) 18:00~20:00 下関市立長府東公民館

②会議の位置付け

第2回委員会での問題提起を受け、市より福祉政策課担当課長を招き、災害時要援護者に関する相互協力について依頼し、了承を得た。そのほか、データ化が完了した防災マップを基に、この時点で未定となっていた詳細事項や、地図以外の記載内容について検討を行い、決定した。



③主な議事内容

●防災マップに関する検討

防災マップの作成上、継続して検討事項となっていた各項については、次のように決定した。

検討事項	決定内容
(全体構成・レイアウト等) ・全体を2分割(四王司・新四王司・さつきヶ丘/松小田中央)してはどうか。また、注釈等は欄外の方がよいのでは？ ・地図の版形、及び片面(壁貼り前提)/両面(持ち歩き前提)はどうするか。	(全体構成・レイアウト等) ・使い勝手を考慮して、2分割とし、注釈等は原則として欄外に記載する。 ・しまい込んでしまっでは活用されないの で、表面に全ての情報を記載して、壁に貼れるように作成する。その際、縮尺等は各地区の状況に応じて検討する。 ・版形はA1版とし、半分を地図、余白にその他の情報を掲載する。
(地図以外の記載事項) ・地図以外に、欄外に記載が必要な内容は何か。	(地図以外の記載事項) ・以下の各内容を記載する。 市から発表される避難情報の解説 地区及び周辺の避難所・避難場所一覧 非常時持ち出し品チェックリスト 情報入手先に関する情報 ・各種連絡先や、台風のメカニズム等の情報は不要と判断し、掲載しない。

なおこの後、12月13日(水)に別途小打ち合わせを行い、上記項目の詳細を詰めると共に、

以下の各項を追加・修正した。

- ・現地調査（まち歩き）の日付を入れる。
- ・制作は「長府東部地区まちづくり協議会」とする。
- ・方位・スケールバーを入れる（縮尺は対象町内会によって微妙な違いが出るため割愛する）。
- ・長府運動場の付近に「体育館は避難場所でない」旨を注記する（一覧表も同様）。
- ・本事業の事業名及び事業主体を記載する。
- ・原図（都市計画図）の使用に関する下関市長の承認について記載する。
- ・背景色は水色を採用する。
- ・その他、デザイン上の小修正。

●次回委員会に向けた対応

事務局より、次回委員会までに必要な成果物として、以下が提示された。

- ・防災マップ（完成版）
- ・防災マップ作成マニュアル
- ・次年度に向けた検討課題（防災課題、要援護者対応）

そのため、第5回検討部会を開催し、成果物の確認を行うこととした。

(10) 第5回検討部会

①実施日時・場所

平成30年1月16日（火）18:00～20:00 下関市立長府東公民館

②会議の位置付け

第3回委員会に向け、本年度の成果物となる防災マップ、防災マップ作成マニュアル、及び次年度の課題について、最終的な修正箇所の確認と意識合わせを行った。また、本事業の終了後に、防災マップ及び防災マップ作成マニュアルの印刷・配布について検討することを確認した。

③主な議事内容

●防災マップの修正

防災マップについて、白木委員より以下の説明があった。

- ・第4回検討部会で議題となった、災害種別による避難所開設の有無については、地図上にマークを表示すると共に、一覧表上で赤い×印を付けて分かるようにした。
- ・避難路については、他の災害については適用となるため、そのままとした。また、避難路は「推奨」であって絶対ではないので、矢印等で使い方を限定することは行わない（この点は、まち歩きの後にコンセンサスをとった）。

以下の事項が指摘され、修正を行うこととなった。

- ・施設の新設・廃止に伴う修正、記載誤りの修正。
- ・避難路が有効なのは当該避難所が開設される場合のみとなる箇所があるので、その旨をコメントとして追記する（避難所一覧表に追記）。

●防災マップ作成マニュアル

今回、初提出となる防災マップ作成マニュアルについて、白木委員より以下の説明があった。

- ・次年度以降、初めて携わる人が参考とできるように内容を検討の上、作成した。
- ・全体の流れをチャートで示した。
- ・まち歩きの方法を細かく記載した。なお、使用した道具は保管してあり次年度も使用可能。
- ・地図への記入方法は、まず付箋を使用した思いついたことを貼っていき、その後、清書する方法でよいと思う。
- ・電子データ化については、予算の関係もあり、本年度と同様に行うのは難しいかもしれない。また、電子マップ化も今後の課題である。
- ・要援護者対応については、掲載すべきか悩んだが、大切なことなので課題として記載した。次年度以降も、引き続き重要課題として取り組んでいきたい。
- ・年間スケジュールも記載した。本年度は実質9月からの作業となったので、次年度以降はもう少し早く開始した方が余裕ができてよいと思う。夏休みに作業すれば、小中校生の参加も期待できる。
- ・先進地視察（現地調査）も掲載すべきか悩んだが、次年度以降に初めて取り組む人の参考になると考え、全文を添付した。これを読めば「防災マップとは何か」が分かると思う。
- ・本マニュアルは初版であり、今後、周囲の意見を取り入れつつ改版していきたい。

(11) 第3回委員会

①実施日時・場所

平成30年2月2日（金）18:00～20:00 下関市立長府東公民館

②会議の位置付け

本年度の事業の締めくくりとして、成果物となる防災マップ、防災マップ作成マニュアル、及び次年度の課題について、最終的な説明と確認を行い、委員会として承認した。その他、防災マップの作成を終えての意見交換等を行った。

③主な議事内容

●防災マップの説明

白木委員より、本事業により作成した防災マップについて以下のとおり説明。

(防災マップの位置付け)

- ・自治会において「本防災マップと、市作成のハザードマップとは違いがあるのか？」という質問が出たが、作成側としては違いは「ある」と解釈しており、そのように回答した。
- ・具体的には、ハザードマップは「どの区域にどのような危険があるか」を示す地図であるが、防災マップは「具体的な危険箇所はどこか」「避難先はどこが望ましいか」「コンビニはどこにあるか」といった、防災に関してより生活視点で捉えた地図であると考えている。

(地区の選定)

- ・地区の選定に関しては、主に土砂災害を対象とする地区として四王司・新四王司・さつきヶ

丘自治会（以下、山側地区）を、主に浸水災害を対象とする地区として松小田中央自治会（以下、海側地区）を選定した。

（地区ごとの課題）

- ・防災マップ作成に当たり悩んだ点は、山側地区では避難路が狭い市道1本しかなく、川沿いのため増水の危険があることであった。3自治会1,300人が一斉に車で避難すればパニックが起きる。このような現状を確認できたことには意義があり、防災マップ配布時に住民に認識してもらうことが必要と考えている。
- ・山側地区では、防災マップの作成開始当初、小中学校を避難所として想定していた。しかし途中で、土砂災害時には小中学校が避難所として開設されず、避難先が乏しいことが判明した。状況によっては、避難せずに公民館や町民館で待機し、市の防災安全課に連絡して対応を待った方が安全かもしれない。そのことが分かった点は、本事業の成果として大きかった。
- ・海側地区では、防災マップ作成におけるまち歩きで、地区内に川が3本あり、高潮時には逆流のおそれがあることを再認識した。また、まち歩き時に1994年の浸水水位が記録されている壁を発見し、これを標高に換算して想定水位とした。さらに標高だけでは不十分と考え、地元住民への聞き取り調査も実施した。
- ・長府体育館が避難所ではないことも今回確認した。行政の立場を考えれば理解できるが、地元住民は「ではどこへ逃げるか」を考えることが重要である。

（全体的な課題）

- ・全体的に、避難所の絶対数が不足している。防災安全課からは、避難所が不足したり、避難が長引いたりする場合はバスで他の場所へ移送する旨説明を受けているが、今後、自治会連合会・自主防災組織及び市で継続的に協議を続けていく必要があると考えている。
- ・防災マップには、市の防災メールについても説明を載せた。今後、市からの情報を適時得るために、説明会その他を通じ、防災メールの積極的な活用を住民に周知・啓発していきたい。

防災マップに関する質疑応答は以下のとおり。

（石津委員）

1枚のマップでいろいろな情報を網羅しており、大変分かりやすい印象を受けた。ここまでに至った経緯をお聞かせいただきたい。

（白木委員）

当初は、ただで保管することを前提に、1枚の地図で山側・海側両地区をカバーし、裏面に諸情報を掲載する考えであった。しかし、検討部会において、それでは活用が進まないとの意見が出され、壁に貼ることを前提とするよう変更した。そのため、2地区を分割して2枚の地図にし、諸情報も表面に掲載することとした。これにより、分かりやすい防災マップにすることができたと思う。

その際、地区を小さく分けすぎると、避難所が図内に収まらないといった問題が起きるので、これから作成する地区では実情に合わせて適宜調整してほしい。

（石津委員）

壁に貼るといのはよいアイデアであり、ゴミの収集カレンダーのように定着・活用が進むことが期待できそうだ。

●防災マップ作成マニュアルの報告

白木委員より、本事業により作成した防災マップ作成マニュアルについて以下のとおり報告。

(マニュアルの意義)

- ・本事業は、防災マップの作成のみで終わるのではなく、今後、他地区でも順次取組を進めていく。そのため、次年度以降初めて携わる人が分かるように、本年度の活動内容をまとめたものが本マニュアルである。初めての人でも分かるように、丁寧な記載を心がけた。

(先進地域の視察)

- ・本マニュアルの記載の中で、先進地域の視察は大変勉強になった。実施してよかったと思う。2地区とも、自主的に活動していた点が印象に残っている。
- ・真庭市の事例では、自分たちで福祉避難所を作り上げた点、岡山市の事例では、同じく自分たちで企業と交渉して避難所を確保した点が特筆される。
- ・両事例とも、災害時要援護者に対する取組でも先進的であった。この点に関しては、下関市でも同様の取組が行えるはずであり、そのことが分かった点が大きな収穫であった。

(作業上のポイント)

- ・詳細はマニュアル本編（本報告書「防災マップ作成マニュアル」(P.73)）を参照願いたい作業上のポイントは以下のとおり。
 - まち歩きに使用する地図は、住宅地図が大きくて書き込みやすい。
 - 今回は消火栓を掲載していない。理由は、住民自身による操作が難しいため、及び地図が煩雑になるのを避けるためである。今後作成する地区では、掲載を検討してもよいかもしれない。
 - 日程の決定が意外に大変であった。自治会行事、運動会等との重なりを避けるためには、夏休み前にまち歩きを行った方がよい。
 - 実際にはまち歩きは午前中で終わったが、昼食をとりながらの話し合いが、いわゆるツールボックスミーティング(TBM)として機能し、大変有意義であった。得るものが多いので、是非実施すべきである。

(作業上の問題点)

- ・平成25年の災害対策基本法等改正に伴い、避難所に関して災害種別による区分ができた（災害種別により開設されない避難所が定められた）が、作業開始後の11月になって初めてそのことを知った。住民には「学校へ逃げれば安心」という意識が強いので、今後、避難所について周知徹底を図る必要がある。
- ・場合によっては、避難すべきか否か検討を要する地区も出てくる。個人が自己責任で判断することを徹底する必要がある。

防災マップに関する質疑応答は以下のとおり。

(石津委員)

まち歩きは夏休み前がよいとか、ミーティングの効果が高かったといった「気付き」が得られたことは有意義だったと思う。これから活動を行う人に、他にもアドバイスがあればお願いしたい。

(白木委員)

マップづくりは、ゆっくりと見て、とにかく書き込むことに尽きる。

まち歩きときは、関係ないことも書き込んで、写真もたくさん撮っておく。そして、忘れないように時間をおかずに整理し、編集することが大切である。また、まち歩きではどこをどう歩くか、例えばルートを「一筆書き」にするなど、リーダーがよく検討することである。

実際にやってみると、まち歩きは遠足のように楽しい。長年住んでいても知らない場所もあり、初めて訪れるところは非常に新鮮であった。

(友松委員)

今回の事業で最も強く感じたことは、たとえマニュアルがあっても、そのとおりにやればできるものではないということだ。白木氏というリーダーの存在があればこそ、短時間で防災マップを完成できたのであり、その情熱には敬服する。白木氏の防災士としての知識と、やる気と、人のまとめ方すなわちリーダーシップとが、極めて重要なポイントであったと考える。

●防災マップ・防災マップ作成マニュアルに対する意見

オブザーバーの意見は以下のとおり。

(新四王司地区)

- ・小中学校に児童・生徒の参加を要請したが、今回は諸事情により実現せず、非常に残念であった。児童・生徒が参加すれば、両親の参加も期待でき、地域の防犯・防災にも大いに役立つので、今後の課題としたい。
- ・リーダーシップの重要性を再認識した。また、まち歩きや視察に参加したことは大変有意義であった。長年住んできた町内でも新しい発見があり、今後に生かしていきたい。

(山の田地区まちづくり協議会)

- ・当地区では来年度、防災マップづくりに取り組む予定である。大変素晴らしい防災マップを拝見して、自分たちがどれだけできるか不安でもあるが、積極的に取り組んでよいものを作りたい。

(吉見地区まちづくり協議会)

- ・防災マップづくりの過程を詳細に見ることができ、参考になった。

(中東地区まちづくり協議会)

- ・当地区でも大まかな防災マップは作成済みだが、長府東部地区の防災マップを拝見して、当地区でもあらためてまち歩きを行い、整備を進めたい。
- ・要援護者の問題は当地区でも悩みの種である。本日の議論を参考にしたい。

(内日地区まちづくり協議会)

- ・今回の防災マップを参考にして、当地区でも進めていきたい。人材に関しては、リーダーシップが最も重要だと感じた。現状では、地区内にもやる気には温度差があるので、今後の課題である。

(勝山地区まちづくり協議会)

- ・貴重な資料を拝見できて感謝している。当地区では、防犯については取り組んできたが、防災はこれからである。隣接地区なので大変参考になった。
- ・これこそが本当に「生きるため」の防災マップだと感じた。消防団や自主防災組織の整備が不十分な中で防災マップづくりに取り組んだことには大きな意義があり、災害時に機能する